

令和7年度三重大学国際交流事業実施報告書（学内版）

1. 申請部局

学部・研究科名等： 教育学部

事業担当者の職・氏名： 准教授・服部 明子

内線電話番号： 9360

電子メール： hattori@edu.mie-u.ac.jp

2. 事業の名称（20字以内，別に副題を付けても良い）

海外教育実地研究プログラム 2025（台湾）

3. 事業内容の別（該当するところにチェックを入れてください。）

教職員，学生の海外派遣（学会やシンポジウム等の出席は除く）

海外交流機関等からの教職員，学生の受け入れ

国際教育プログラムの開発や推進

その他

4. 事業の取組結果

(1) 事業概要

本事業は、外国人児童生徒等への日本語指導が行える教員養成の一端を担うため、「海外教育実地研究 B (後期開講・2 単位)」における海外研修を行うものである。本プログラムの特色は、他の学内プログラム参加や交換留学等への足掛かりとなるための入門編として構成している点である。そのため、海外に興味があることのほかは、言語レベルなどの条件を課さず、PBL により現地では自ら行動することが課されており、短期間で疑似的に留学体験ができるような授業設計となっている。令和 7 年度は、協定校である文藻外語大学と COIL を実施した。

(2) 事業の背景・これまでの実績

本科目「海外教育実地研究 B」(教育学部・学部共通開講科目)は 2020 年度より新設した。当初は、新型コロナウイルス感染症の影響で渡航中止となっており、令和 5 (2023) 年度が初の現地研修となった。昨年は、7 名の学生(教育学部 6 名、教職大学院 1 名)が参加、令和 6 年度は 5 名(教育学部 5 名)が参加した。

(3) 事業実施結果

参加者：教育学部生 2 名 (内訳：特別支援コース 1 年 2 名)

前半：講義および PBL (2025 年 10 月 6 日～2 月 2 日)

後半：台湾・高雄および台北にて実地研修 (2026 年 2 月 11 日～2 月 15 日)

授業日	「2025 年海外教育実地研究 B」授業内容	授業形式	担当教員
10月16日	オリエンテーション ①本授業の概要 履修方法、課題、成績評価 ②研修先概要・世界の日本語教育、台湾/高雄の概要および台湾の教育について ③研修計画・飛行機チケット予約、ホテル予約、保険旅行保険、パスポート取得について	講義	服部
10月14日	①世界の日本語教育、台湾の教育、台湾の概要、台湾の言語教育、高雄の概要 ②研修計画について ・渡航日程最終確認、チケット予約 ・研修計画の立て方 文献購読	講義 /PBL	
11月10日	歴史的背景と日本語教育史	講義	大坪
12月15日	アジア圏の文字・表記、海外の日本語教育①	講義	林
12月22日	アジア圏の文字・表記、海外の日本語教育②	講義	服部
1月19日	研修計画立案①	PBL	
1月26日	研修計画立案②	PBL	
2月2日	研修計画最終確認、文藻外語大学 学生交流①	PBL COIL	
2月11日	午前：移動 9:50-12:15 (CI) 午後：研修テーマに関するインタビュー (高雄師範大学・朱淑玲先生)	現地研修	
2月12日	午前：9:30-11:30 高雄日本人学校見学 (崧山知基校長先生、高田浩二教頭先生) 午後：研修テーマに関する自由行動 (各自)		
2月13日	午前：9:30-10:30 日本台湾交流協会ご講義/見学 (太原ゆか先生・井戸雅彦様) 午後：研修テーマに関する自由行動 (各自)	COIL	
2月14日	文藻外語大学 学生交流②、左営-台北移動 (文藻外語大学・佐藤圭司先生)		
2月14日	午前：研修テーマに関する自由行動 (各自)		
2月15日	午後：移動 17:15-20:50		

宿泊先 高雄：Chillax Inn 知来愛河館/台北：ホテル プリ タイペイ ステーション ブランテ

(4) 事業の意義

①教育学部すべてのコースの学生を対象とし、多角的に異なる言語・文化に触れ、実地で学ぶ機会を提供し、日本とアジアを相対的に捉え、異なる文化や言語への理解を促すことができた。

②教員養成課程における取組の充実 近年、文部科学省が取り組みを進めている海外日本人学校で研修を行うことで、教員養成課程と往還する教育内容の充実を進めることができた。

③（５）でも述べるように、事業の発展性及び継続性が見込まれる。本事業は外国語能力を参加要件にせず、興味のある学生であれば誰でも参加可能としている。海外に興味はあるが言語面また安全面への不安から、単身で協定校への長期交換留学などへの心理的障壁が高い学生にとって、最初の海外体験を行うゲートウェイの段階として有効的なプログラムである。

（５）事業の発展性

①中長期留学の促進 教員から具体的に協定校への留学への流れなどを提示するとともに、短期間ながら留学と同様の体験を本事業に盛り込んだ。学生は、研修期間後、中長期交換留学を検討したいと述べており、一定の意義があったと思われる。

②協定校との連携強化 本事業において文藻外語大学との継続的な交流を重ねてきたことにより、令和８年度４月より、コンセクティブディグリープログラム２名、一般交換留学（１学期）２名を三重大学留学生としての受け入れにつながった。

また、高雄師範大学の先生から専門的知識をご提供いただくことができた。

③令和７度も令和６年度に引き続き、参加学生による動画作成も行った。学生２名は、令和６年度の動画を見て参加を決めたと述べていたことから、大学のHP等での公開・広報活動や新入生対象の本事業等への海外プログラムの説明会等での効果が認められると思われる。

（６）中期目標・中期計画における位置づけ

該当の中期目標：「２ 教育（８）」

該当の中期計画：「２ 教育に関する目標を達成するための措置（９）-１」

（７）その他

特になし